

# 「令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【七栄小学校】

令和3年5月27日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### 教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等  
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

### 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/21chousa/21chousa.htm>

## 2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

### (1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国 語	学習指導要領に示されている内容に基づく。 〔知識及び技能〕 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項 (3) 我が国の言語文化に関する事項 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと	C
算 数	学習指導要領第2章第3節算数における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

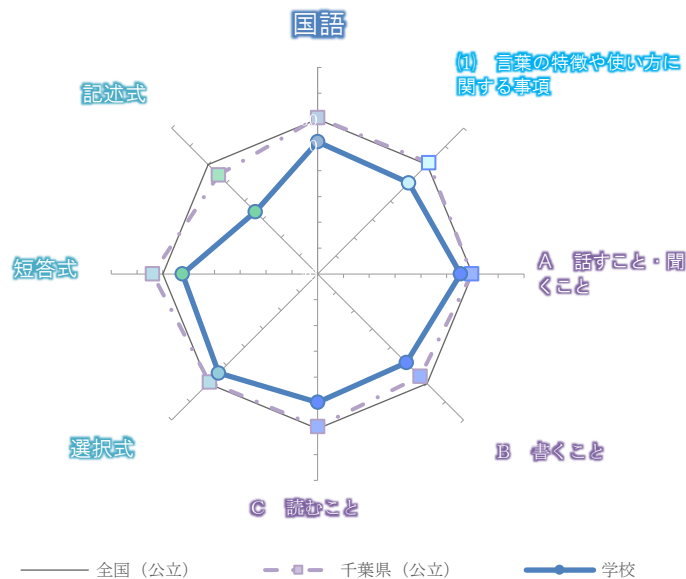
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



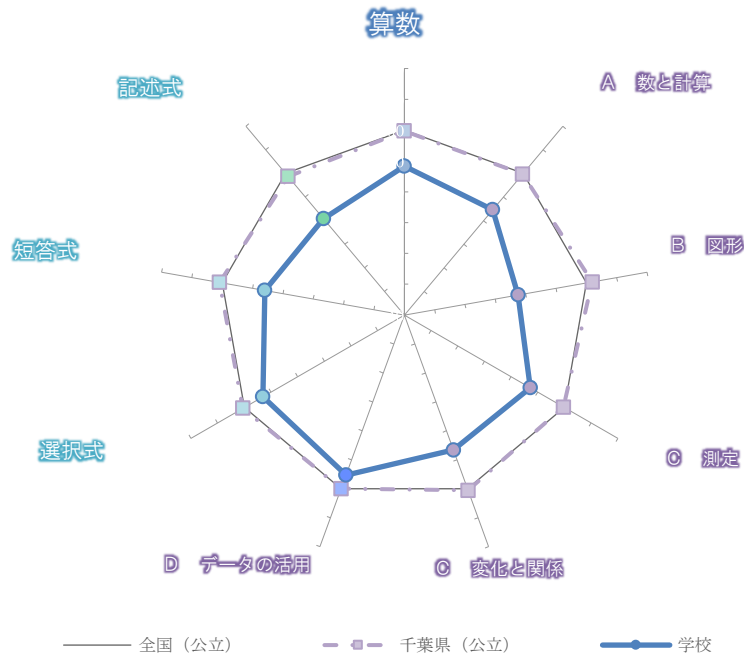
#### 【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較してやや正答率が下回っています。
- 「読むこと」の領域では、正答率が上回っています。目的に応じて、文章の内容を的確に押さえることができています。
- 「話すこと・聞くこと」の領域では、正答率が下がっています。相手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめることに課題があります。
- 「短答式」と「記述式」の形式において正答率が下がっています。特に、「記述式」の問題での無解答率が高くなっています。
- 文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題の正答率が下がっています。
- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題があります。

#### 【改善方策等】

- これからも引き続き、ドリル学習などを通して漢字の読み書きが確実に定着するようにしてまいります。また、国語辞典を活用して語彙を増やしたり、文章の中で文脈に合った適切な言葉を選択したりする力が身に付くように指導してまいります。
- 接続語を使って複数の文に分けて書き直す学習に取り組んでまいります。具体的には、文と文のつながりに気を付けて分けているか、接続語の役割を正しく捉え適切に使っているかなどの指導をしてまいります。
- 「話すこと・聞くこと」については、国語科の学習だけでなく、他教科等においても適宜指導してまいります。具体的には、話し手の意図を理解するための聞き方や自分が伝えたいことを端的に伝えるための話し方を継続して指導してまいります。
- 「書くこと」については、各教科の授業において、書くという場面を設定し、どのように書けば読み手に目的や意図が伝わるかという指導をしてまいります。また、教師による添削も行ってまいります。

## 算 数



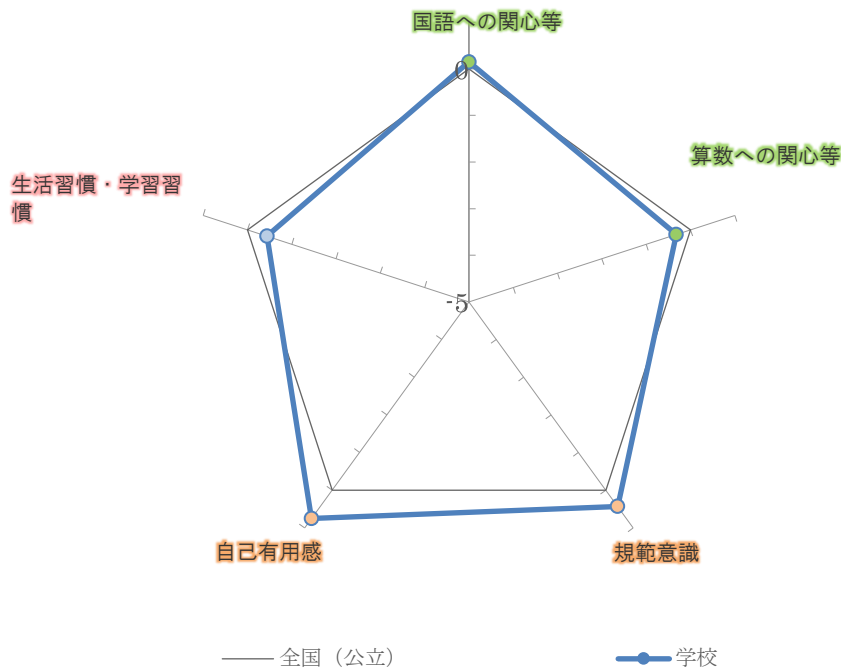
### 【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率がやや下回っています。
- 図形に関する領域は正答率が上回っています。合同な図形の特徴をよく理解しています。
- 記述式の問題の正答率が下回っています。また、無回答率が高い傾向にあります。
- 棒グラフから資料の特徴や傾向を関連付けて、一人あたりの水の使用量の増減を判断する問題の正答率が下回っています。
- 加法と減法の混合した整数と小数の計算の問題の正答率が下回っています。
- 場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断する問題の正答率が下回っています。

### 【改善方策等】

- これからもドリル学習や「とみの国」検定の練習などを通して、基礎・基本的な計算力が身に付くように努めてまいります。
- 記述式の問題に課題が見られました。思考の過程を表現する方法が身に付くように指導していきます。特に、児童同士が考えを交流し、深め合う活動にも積極的に取り組んでいきます。
- 棒グラフや折れ線グラフなどの各グラフの特徴を復習していきます。そして、グラフの中の数量の大きさの関係を読み取ることができるように指導してまいります。
- 計算の順序のきまりを確実に理解できるようにするために、四則を混合させたり、（ ）を用いたりして一つの式に表すことができるように指導していきます。
- 問題文から場面の状況を読み取る力が必要です。問題文からわかることを図や表、数直線などに表す活動を通して、問題解決の見通しがもてるように指導してまいります。

### (3) 児童質問紙の結果及び分析



#### 【特徴と現状】

- 「算数の勉強は好きですか」「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」という質問では、「好き」や「活用できるように考えている」など算数に肯定的な考えをもっている児童が多いことがわかりました。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」で「助けている」と回答した児童の割合は、全国平均を上回っていました。思いやりの心が育っていることがわかりました。
- 「自分にはよいところがあるか」で「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国平均をやや下回っていました。
- 「毎日同じ時刻に起きているか」「家で計画を立てて勉強をしたり、宿題に取り組んだりしているか」で「している」と回答した児童の割合は、全国平均を下回っていました。

### 3 まとめ

学校においては、これからも引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めてまいります。また、自分の考えを文章に書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力が向上するように授業を充実させてまいります。また、授業はもちろんのこと、学校生活全般において、友達同士がお互いに認め合う雰囲気をつくれるように努め、自己肯定感を高められるようにしていきたいと思っております。

家庭での生活・学習習慣と学力に関連があるという調査結果があります。ご家庭では、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ごはん」などの規則正しい生活習慣が身につけられるように、引き続きご支援とご協力をお願いいたします。